

## I. 研究目的

健やか親子21の「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」は母子保健の主要課題のひとつとしてあげられている。若年妊娠や性行為感染症の増加などの問題に対し効果的な対策が見出せていないため、地域保健分野の取り組みに対する課題は大きい。また、思春期でのトラブルへの対応では手遅れとの指摘もあり、妊娠期や乳幼児期からの支援や乳幼児期からの親子関係が非常に重要であることがわかってきている<sup>1)</sup>。今後の地域保健分野で課題の取り組みを進めていく上では、現在の幼児期の親子関係や生活状況、保護者の意識を把握し、思春期保健対策について地域と行政、関係部署の連携が重要であると考えられる。

そこで今回は、3歳児をもつ保護者の意識と子どもの生活を調査し、思春期保健対策に向けた幼児期支援について得られた知見を報告する。

## II. 方法

### 1. 調査対象

千葉県印旛保健所管内の協力が得られた10市町村の、3歳児をもつ保護者を対象とした。

### 2. 調査方法

3歳児健診の会場にて保護者に自記式調査票を渡し（もしくは事前に郵送し）、健診当日に回収した。

### 3. 調査内容

調査内容は、大別すると、回答者と子どもの属性、子どもや親子の生活（遊び、食、地域とのつながり、日常生活状況、喫煙など）、性に関する会話の内容等で構成した（添付資料）。

### 4. 調査期間

平成18年8月から10月の3ヶ月間に実施した。

### 5. 分析方法

回収した調査票のうちの有効回答（498票）について、各項目の有効回答票（有効パーセ

ント）より、集計・分析をすすめた。

分析は、統計ソフトSPSS11.5Jを使用した。

## III. 結果

### 1. 回収状況

配布数543人、回収数498人、回収率91.7%であった。

### 2. 対象の特徴

回答者は、父親が17名（3.4%）、母親が475名（95.4%）、その他6名（1.2%）であった。回答者の年齢は、平均値33.2±5.1歳、最小値20歳、最大値60歳であった。祖父母の同居状況は、105名（21.4%）であった。回答者の就労状況は、現在は職についていないが328名（66.4%）、パート・アルバイト等が93名（18.8%）、常勤が73名（14.8%）であった。子どもの性別は男児245名（49.4%）、女児251名（50.6%）であった。出生順位は、第1子が254名（51.4%）、第2子が181名（36.6%）、第3子が47名（9.5%）、第4子が10名（2.0%）、第5子が2名（0.4%）であった。保育園・幼稚園通園の有無は、通園していないが280名（56.6%）、保育園通園が111名（22.4%）、幼稚園通園が104名（21.0%）であった。

### 3. 親の社会性について

（1）地域の子育てサークル等に参加していますか

「はい」は141名（28.5%）、「いいえ」は354名（71.5%）であった。

「子育てサークル等に参加していますか」で「はい」と答えた人を祖父母の同居別にみると、「同居あり」が19.2%、「同居なし」が31.3%であり、祖父母と同居していないほうが子育てサークル等に参加していた（ $p < 0.05$ ）。

「子育てサークル等に参加していますか」で「はい」と答えた人を就労別にみると、「現在職についていない」が38.5%、「パート・ア

アルバイト等」が14.0%、「常勤」が4.1%であり、現在職についていないほうが子育てサークル等に参加していた ( $p<0.01$ )。

「子育てサークル等に参加していますか」で「はい」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が5.5%、「幼稚園」が11.7%、「通園していない」が43.7%であり、通園していない児の保護者が最も子育てサークル等に参加していた ( $p<0.01$ )。

(2) 地域のお祭りや行事に参加していますか。

「はい」は353名 (71.6%)、「いいえ」は140名 (28.4%) であった。

「地域のお祭りや行事に参加していますか」で「はい」と答えた人を出生順位別にみると、「第1子」が63.9%、「第2子以上」が80.7%であり、第1子よりも第2子以上の保護者のほうが地域のお祭りや行事に参加していた ( $p<0.01$ )。

(3) 公園などに子どもを連れて遊びに行くときがありますか。

「はい」は374名 (75.4%)、「いいえ」は122名 (24.6%) であった。

「公園などに子どもを連れて遊びに行くことがありますか」で「はい」と答えた人を就労別にみると、「現在職についていない」が81.0%、「パート・アルバイト等」が66.3%、「常勤」が63.0%であり、現在職についていない保護者のほうが公園などに子どもを連れて遊びに行っていることがわかった ( $p<0.01$ )。

「公園などに子どもを連れて遊びに行くことがありますか」で「はい」と答えた人を出生順位別にみると、「第1子」が80.3%、「第2子以上」が70.7%であり、第1子よりも第2子以上の保護者のほうが公園などに子どもを連れて遊びに行っていた ( $p<0.05$ )。

(4) 自分ひとりで子育てしているという思いがありますか。

「よくある」は28名 (5.7%)、「ややある」

は150名 (30.3%)、「あまりない」は231名 (46.7%)、「まったくない」86名 (17.4%) であった。

「自分ひとりで子育てしているという思いがありますか」で「よくある」「ややある」と答えた人を合わせて就労別にみると、「現在職についていない」が39.5%、「パート・アルバイト等」が27.5%、「常勤」が30.2%であり、現在職についていない保護者が最も自分ひとりで子育てをしているという思いがあった ( $p<0.01$ )。

「自分ひとりで子育てしているという思いがありますか」で「まったくない」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が26.6%、「幼稚園」が14.4%、「通園していない」が14.7%であり、保育園に通園している児の保護者が最も自分ひとりで子育てしているという思いがまったくなかった ( $p<0.05$ )。

#### 4. 子どもの遊び・子どもとの関わり

(1) よくテレビをみせていますか。

「はい」は447名 (89.9%)、「いいえ」は50名 (10.1%) であった。うち回答があったもの434名の一日の平均視聴時間は $2.5 \pm 1.2$ 時間であり、最小値0.5時間、最大値10.0時間、最頻値2.0時間であった。

(2) 絵本の読み聞かせをしていますか。

「はい」は410名 (83.5%)、「いいえ」は81名 (16.5%) であった。うち回答があったもの279名の一日の平均読み聞かせ時間は $18.8 \pm 12.0$ 分であり、最小値0.0時間、最大値60.0分、最頻値10.0分であった。

(3) お子さんとよく遊んでいますか。

「よく遊んでいる」は242名 (48.8%)、「時々遊んでいる」は225名 (45.4%)、「あまり遊んでいない」は28名 (5.6%)、「遊んでいない」は1名 (0.2%) であった。

「お子さんとよく遊んでいますか」で「はい」と答えた人を出生順位別にみると、「第1

子」が96.0%、「第2子以上」が92.1%であり、第1子よりも第2子以上のほうが子どもとよく遊んでいた ( $p<0.01$ )。

(4) お父さんはお子さんとよく遊んでいますか。

「よく遊んでいる」は202名 (41.3%)、「時々遊んでいる」は228名 (46.6%)、「あまり遊んでいない」は49名 (10.0%)、「遊んでいない」は10名 (2.0%)であった。

「お父さんはお子さんとよく遊んでいますか」で「はい」と答えた人を祖父母の同居別にみると、「同居あり」が83.0%、「同居なし」が89.3%であり、祖父母と同居していない父親のほうが子どもとよく遊んでいた ( $p<0.05$ )。

「お父さんはお子さんとよく遊んでいますか」で「はい」と答えた人を男女別にみると、「男児」が85.9%、「女児」が89.8%であり、男児よりも女児の父親のほうが子どもとよく遊んでいた ( $p<0.01$ )。

(5) 外遊びをよくしていますか。

「している」は462名 (93.0%)、「ほとんどしていない」は35名 (7.0%)であった。うち回答があったもの345名の一日の平均外遊び時間は $2.0\pm 1.0$ 時間、最小値0.0時間、最大値6.0時間、最頻値2.0時間であった。

「外遊びをよくしていますか」で「はい」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が98.2%、「幼稚園」が92.3%、「通園していない」が91.1%であり、保育園に通園している児が最も外遊びをよくしていた ( $p<0.05$ )。

(6) 友達とよく遊びますか。

「よく遊んでいる」は256名 (51.6%)、「時々遊んでいる」177名 (35.7%)、「あまり遊んでいない」は49名 (9.9%)、「遊んでいない」は14名 (2.8%)であった。

「友達とよく遊びますか」で「はい」と答えた人を祖父母の同居別にみると、「同居あり」が77.1%、「同居なし」が89.9%であり、祖父母と同居していないほうが友達とよく遊ん

でいた ( $p<0.01$ )。

「友達とよく遊びますか」で「はい」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が97.3%、「幼稚園」が92.3%、「通園していない」が81.3%であり、保育園に通園している児が最も友達とよく遊んでいた ( $p<0.01$ )。

(7) ごっこ遊びをしていますか。

「よく遊んでいる」は335名 (73.3%)、「時々遊んでいる」は104名 (22.8%)、「あまり遊んでいない」は16名 (3.5%)、「遊んでいない」は2名 (0.4%)であった。

「ごっこ遊びをしていますか」で「はい」と答えた人を祖父母の同居別にみると、「同居あり」が93.0%、「同居なし」が96.6%であり、祖父母と同居していないほうがごっこ遊びをしていた ( $p<0.01$ )。

「ごっこ遊びをしていますか」で「はい」と答えた人を男女別にみると、「男児」が93.8%、「女児」が98.7%であり、男児よりも女児のほうがごっこ遊びをしていた ( $p<0.01$ )。

## 5. 食

(1) 食事の時間はだいたい決まっていますか。

「はい」は447名 (98.2%)、「いいえ」は8名 (1.8%)であった。

(2) 家族と一緒に食事をするのがよくありますか。

「毎日ある」は421名 (92.3%)、「週に数日ある」は31名 (6.8%)、「ほとんどない」は4名 (0.9%)であった。

「家族と一緒に食事をするのがよくありますか」で「はい」と答えた人を出生順位別にみると、「第1子」が89.3%、「第2子以上」が95.9%であり、第1子よりも第2子以上の児のほうが家族と一緒に食事をするのがよくあった ( $p<0.05$ )。

(3) おやつを決めて与えていますか。

「はい」は333名 (72.9%)、「いいえ」は124

名 (27.1%) であった。

「おやつの時間を決めて与えていますか」で「はい」と答えた人を就労別にみると、「常勤」が84.4%、「パート・アルバイト等」が75.0%、「現在職についていない」が69.6%であり、常勤の保護者が最もおやつの時間を決めて与えていた ( $p<0.05$ )。

「おやつの時間を決めて与えていますか」で「はい」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が84.8%、「幼稚園」が70.1%、「通園していない」が68.7%であり、保育園に通園している児の保護者が最もおやつの時間を決めて与えていた ( $p<0.01$ )。

(4) よくかんで食べていますか。

「はい」は392名 (86.9%)、「いいえ」は59名 (13.1%) であった。

「よくかんで食べていますか」で「はい」と答えた人を男女別にみると、「男児」が83.3%、「女児」が91.0%であり、男児よりも女児のほうがよくかんで食べていた ( $p<0.05$ )。

(5) 子どもの食事をつくるのは楽しいですか。

「はい」は197名 (43.5%)、「いいえ」は16名 (3.5%)、「何ともいえない」は240名 (53.0%) であった。

「子どもの食事をつくるのは楽しいですか」で「はい」と答えた人を就労別にみると、「常勤」が60.3%、「パート・アルバイト等」が46.4%、「現在職についていない」が39.3%であり、常勤の保護者が最も子どもの食事をつくるのが楽しいと感じていた ( $p<0.05$ )。

「子どもの食事をつくるのは楽しいですか」で「はい」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が54.3%、「幼稚園」が35.2%、「通園していない」が41.6%であり、保育園に通園している児の保護者が最も子どもの食事をつくるのが楽しいと感じていた ( $p<0.05$ )。

(6) お子さんは一緒に食事づくりや後片付けをしていますか。

「している」は342名 (76.2%)、「ときどきしている」は107名 (23.8%) であった。

「お子さんは一緒に食事づくりや後片付けをしていますか」で「している」と答えた人を男女別にみると、「男児」が67.9%、「女児」が84.3%であり、男児よりも女児のほうが子どもと一緒に食事づくりや後片付けをしていた ( $p<0.01$ )。

## 6. 生活

(1) おむつはとれましたか。

「はい」は364名 (79.8%)、「トレーニング中」は81名 (17.8%)、「いいえ」は11名 (2.4%) であった。

(2) 子どもを連れて夜外食・外出などをすることがよくありますか。

「ある」は64名 (14.0%)、「ときどきある」は205名 (44.8%)、「あまりない」は157名 (34.3%)、「ない」は32名 (7.0%) であった。帰宅時間は、平均が $20.2\pm 1.2$ 時、最小値17.0時、最大値23.0時、最頻値20.0時であった。

「子どもを連れて夜外食・外出などをすることがよくありますか」で「ある」「ときどきある」と答えた人を合わせて就労別にみると、「常勤」が61.6%、「パート・アルバイト等」が63.1%、「現在職についていない」が56.9%であり、パート・アルバイト等の保護者が最も子どもを連れてよる外食・外出をすることがよくあった ( $p<0.05$ )。

(3) 子どもは早寝早起きをしていますか。

「はい」は328名 (71.8%)、「いいえ」は129名 (28.2%) であった。

回答があった454名の起きる時間は、平均が $7.2\pm 0.8$ 時、最小値5.0時、最大値10.0時、最頻値7.0時であった。また、回答があった452名の寝る時間は、平均が $21.3\pm 0.9$ 時、最小値18.5時、最大値24.0時、最頻値21.0時であった。

子どもは早寝早起きですかという設問で、

「はい」と回答した群の平均は、起きる時間が6.9±0.6時、寝る時間が20.9±0.7時であり、「いいえ」と回答した群の平均は、起きる時間が7.8±0.8時、寝る時間が22.1±0.7時であり、ともに有意な関連がみられた。

「子どもは早寝早起きをしていますか」で「はい」と答えた人を就労別にみると、「常勤」が60.0%、「パート・アルバイト等」が66.7%、「現在職についていない」が75.4%であり、現在職についていない保護者が最も子どもは早寝早起きをしていた ( $p<0.05$ )。

「子どもは早寝早起きをしていますか」で「はい」と答えた人を出生順位別にみると、「第1子」が64.4%、「第2子以上」が80.5%であり、第1子よりも第2子以上のほうが子どもは早寝早起きをしていた ( $p<0.01$ )。

「子どもは早寝早起きをしていますか」で「はい」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が61.3%、「幼稚園」が92.0%、「通園していない」が69.2%であり、幼稚園に通園している児が最も早寝早起きをしていた ( $p<0.01$ )。

(4) 歯磨きや手洗いをしていますか。

「している」は421名 (91.9%)、「ときどきしている」は34名 (7.4%)、「あまりしていない」は3名 (0.7%)であった。

(5) 衣服の着脱をひとりでしますか。

「する」は240名 (52.3%)、「ときどきする」は194名 (42.3%)、「あまりしない」は25名 (5.4%)であった。

「衣服の着脱をひとりでしますか」で「する」と答えた人を祖父母の同居別にみると、「同居あり」が39.6%、「同居なし」が56.6%であり、祖父母の同居していないほうが衣服の着脱をひとりでしていた ( $p<0.01$ )。

「衣服の着脱をひとりでしますか」で「する」と答えた人を男女別にみると、「男児」が42.4%、「女児」が61.8%であり、男児よりも女児のほうが衣服の着脱をひとりでしていた

( $p<0.01$ )。

## 7. 地域との関わり

(1) あなたの住んでいる地域では子どもに道で声をかけてくれる人がいますか。

「はい」は367名 (80.8%)、「いいえ」は87名 (19.2%)であった。

(2) 他の子どもに道でよく声をかけますか。

「はい」は240名 (53.0%)、「いいえ」は213名 (47.0%)であった。

「他の子どもに道でよく声をかけますか」で「はい」と答えた人を通園状況別にみると、「保育園」が41.9%、「幼稚園」が64.7%、「通園していない」が53.5%であり、幼稚園に通園している児の保護者が最も他の子どもに道でよく声をかけていた ( $p<0.01$ )。

## 8. たばこ

(1) あなたは現在喫煙をしていますか。

「はい」は98名 (21.4%)、「いいえ」は359名 (78.6%)であった。

(2) あなた以外の家族に、現在喫煙している人がいますか。

「いる」は247名 (53.9%)、「いない」は211名 (46.1%)であった。

「あなた以外の家族に、現在喫煙している人がいますか」で「はい」と答えた人を祖父母の同居別にみると、「同居あり」が32.7%、「同居なし」が50.1%であり、祖父母と同居していないほうが家族に喫煙している人がいた ( $p<0.01$ )。

## 9. 性について

(1) お子さんは、自分が「男の子」か「女の子」か、知っていますか。

「はい」は426名 (93.0%)、「いいえ」は3名 (0.7%)、「わからない」が29名 (6.3%)であった。

(2) 今までに、親から子へ、性の話しをし

たことがありますか（当てはまるものにすべて○）。

回答があったもの451名（1500回答）の内訳は多い順に、「汚い手で性器を触らない」は309名（68.5%）、「綺麗に性器を洗う」は293名（65.0%）、「性器を隠しましょう」は194名（43.0%）、「性器を見せたり話したりすることは恥ずかしいこと」は171名（37.9%）、「男女の性器の違いについて」は125名（27.7%）、「自分はどこからきたのか」は99名（22.0%）、「人の性器を触ってはいけない」は89名（19.7%）、「好きな子の話し」は66名（14.6%）、「性器に関する表現は場所を選ぶ」は64名（14.2%）、「お父さんとお母さんがどうして一緒にいるのか」は38名（8.4%）、「その他」は1名（0.2%）であり、「話しをしていない」は51名（11.3%）であった。

（3）あなたは中学生の頃までに、親と性に関する事柄について、話をすることがありましたか。

「よく話しをした」は7名（1.5%）、「時々話しをした」は47名（10.4%）、「ほとんど話しをしなかった」は166名（36.6%）、「まったく話しをしなかった」は234名（51.5%）であった。

10. 「地域のお祭りや行事に参加していますか」とのクロス集計

#### （1）遊びとの関連

「地域のお祭りや行事に参加していますか」で「はい」答えた人を子どもの遊びの頻度別にみると、「よく遊んでいる」198名（56.1%）、「遊んでいない」7名（2.0%）であり、同様に、外遊びの状況別にみると「よくしている」333名（94.3%）、「ほとんどしていない」20名（5.7%）であった。地域のお祭りや行事に参加している子どものほうが友達とよく遊び（ $p<0.01$ ）、外遊びもよくしていた（ $p<0.05$ ）。

#### （2）子どもの生活習慣との関連

「地域のお祭りや行事に参加していますか」で「はい」答えた人を子どもの生活習慣別にみると、「早寝早起きをしている」242名（74.9%）、「していない」81名（25.1%）であった。地域のお祭りや行事に参加している人のほうが早寝早起きをしていた（ $p<0.05$ 、表1）。

#### （3）地域との関わりとの関連

「地域のお祭りや行事に参加していますか」で「はい」と答えた人を他の子どもへの声かけの状況でみると、「よく声をかける」183名（57.5%）、「声をかけない」135名（42.5%）であった。地域のお祭りや行事に参加している人のほうが他の子どもにもよく声をかけていた（ $p<0.01$ ）。

#### （4）子育て負担感との関連

「地域のお祭りや行事に参加していますか」で「はい」と答えた人を自分ひとりで子育てしている感の有無でみると、「よくある」14名（4.0%）、「ややある」98名（27.8%）、「あまりない」176名（50.0%）、「まったくない」64名（18.2%）であった。地域のお祭りや行事に参加している人ほど自分ひとりで子育てしている感がなかった（ $p<0.01$ ）。

11. 「子どもは早寝早起きをしていますか」とのクロス集計

「子どもは早寝早起きをしていますか」で「はい」と答えた人を、子どもを連れて夜外出・外食などをよくするかの有無でみると、「ある」45名（13.8%）、「ときどきある」136名（41.6%）、「あまりない」118名（36.1%）、「ない」28名（8.6%）であった。早寝早起きをしている人のほうが、子どもを連れての夜の外出が少なかった（ $p<0.05$ 、表2）。

「子どもは早寝早起きをしていますか」で「はい」と答えた人を、歯みがき・手洗いの有無でみると、「している」307名（93.9%）、「時々している」18名（5.5%）、「あまりしていない」2名（0.6%）であった。早寝早起きを

している人のほうが、歯磨き・手洗いの習慣があった ( $p < 0.05$ , 表3)。

## 1 2. 「あなたの住んでいる地域では子どもに道で声をかけてくれる人がいますか」とのクロス集計

「地域で子どもに声をかけてくれる人がいますか」との設問に「はい」と回答した人を子どもとの遊びの頻度でみると「遊んでいる」95.4%、「遊んでいない」4.7%であった。地域で子どもに声をかけてくれる人が多いほうが子どもとよく遊んでいた ( $p < 0.01$ )。

同様に、子育てサークル等に参加の有無でみると、「参加している」31.0%、「参加していない」69.0%であった。地域で子どもに声をかけてくれる人が多いほうが子育てサークル等に参加していた ( $p < 0.05$ )。

さらに、ひとりでの子育て負担感の有無でみると、「ある」34.9%、「ない」64.0%であった。地域で子どもに声をかけてくれる人が多いほうが自分ひとりで子育てしている感がなかった ( $p < 0.05$ )。

## IV. 考察

### 1. 基本的な生活習慣の確立の重要性

本研究では3歳児の食生活状況は整っている傾向がみられた。一方で、「子どもの食事をつくるのは楽しいですか」では、「何ともいえない」が半数を超えていた。また、親子で遊んでいる人ほど、子どもの食事を作るのが楽しいと答えていた。これらのことから、幼児期からの食育の役割が重要であると考えられた。

早寝早起きは、28.2%が「いいえ」と回答し、また夜間の外出や兄弟の有無とも関連がみられた。これまでも規則正しい生活習慣は良好な発達と情緒の安定に不可欠であると言われ

ており<sup>2)</sup>、子育て感や虐待防止の観点からも関連がみられると言われている<sup>3) 4)</sup>。そのため、子どもたちが良い生活習慣が確立できるよう、幼児期の基本的な生活習慣の確立に向けた支援を妊娠期から継続して母子保健活動に組み込むことが必要であると思われた。

### 2. 子どもたちを取り巻く地域の環境整備

白石ら<sup>5)</sup>によると、地域で催される行事のなかでも特に「祭り」の参加状況と地域住民の育児支援に対する意識との関連があると指摘されている。今回の調査では、地域の行事に参加している子どもは基本的な生活習慣が整っており、友達との関わりが多いことがわかった。さらに、参加している人や地域で声をかけてくれる人がいると認識している人は、親自身も他の子どもに道でよく声をかけ、ひとりで子育てをしているという思いが少ない人が多いことがわかった。

これらより、各家庭から地域への参加だけでなく、行政としては、住民が地域の子どもたちを支えていくような街づくり支援、さらに地域の祭り等の活動支援を推進していくことが必要と思われた。

## V. まとめ

今回の調査研究によって、乳幼児期の親子関係や生活状況を把握し乳幼児期からの支援について検討することを目的に、千葉県印旛管内で協力の得られた10市町村の3歳児をもつ保護者の意識や子どもの生活を調査し、498名の回答が得られた(回収率91.7%)。それらから得られた知見は以下のとおりである。

1. 地域のお祭りや行事に参加しているものは71.6%であった。出生順位別にみると、「第1子」が63.9%、「第2子以上」が80.7%であり、第1子よりも第2子以上の保護者のほうが地域のお祭りや行事に参加して

いた ( $p < 0.01$ )。

2. 地域のお祭りや行事に参加している子どものほうが、友達とよく遊び ( $p < 0.01$ )、外遊びもよくし ( $p < 0.05$ )、早寝早起きをし ( $p < 0.05$ )、他の子どもにもよく声をかけ ( $p < 0.01$ )、自分ひとりで子育てしている感がなかった ( $p < 0.01$ )。
3. 「食事の時間はだいたい決まっている」が98.2%、「家族と一緒に食事をするのがよくある」で「毎日ある」が92.3%であり3歳児の食生活は整っている傾向が見られた。
4. 一方で、「子どもの食事をつくるのは楽しいですか」では、「何ともいえない」が53.0%と半数を超えていたが、親子で遊んでいる人ほど子どもの食事を作るのが楽しいと答えていたこともわかった ( $p < 0.01$ )。
5. 子どもは早寝早起きをしていると回答したものは71.8%であった。そのうちの起きる時間は、平均が7.2±0.8時、最小値5.0時、最大値10.0時、最頻値7.0時であった。また、寝る時間は、平均が21.3±0.9時、最小値18.5時、最大値24.0時、最頻値21.0時であった。
6. 親自身が中学校までに親と性に関する事柄について「ほとんど・まったく話しをしていない」と回答したものを合わせると88.1%であったが、一方で現在3歳児をもつ保護者が子どもへ、性に関する会話を全くしてないものは11.3%であった。
7. 性に関する話を子どもとしているもののうち会話の内容として多かったものは、「汚い手で性器を触らない」は68.5%、「綺麗に性器を洗う」は65.0%、「性器を隠しましょう」は43.0%であり、3歳児における家庭での性教育は、生活習慣確立への一助を担っていると考えられた。

## VII. 引用文献

1. 松浦賢長：新しい時代の性教育を考える。日本性教育協会 (JASE) 研究月報：2004年5月
2. 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課：児童生徒の心の健康と生活習慣に関する実態調査報告書。2002年3月
3. 江原寛昭，他：倉敷市における3歳児の発達の研究，第52回小児保健学会講演集：268-269。2005
4. 鳥取県福祉保健部健康対策か：鳥取県乳幼児健康診査マニュアル：38。2004
5. 白石裕子，他：50歳代および60歳代の女性における育児支援者としての潜在的可能性に関する研究：母性衛生，43 (4)：580-585。2002

## VII. 参考文献

1. 松浦賢長：性教育学の構築にむけて，日本性教育協会 (JASE) 研究月報：2005年11月
2. 松浦賢長：いのちを教える。児童心理臨時増刊号：2005年2月
3. 松浦賢長，江寄和子：新しい時代には新しい性教育を①。心とからだの健康：2005年9月
4. 健やか親子21検討会，健やか親子21検討会報告書—母子保健の2010年までの国民運動計画—。厚生省 (現厚生労働省)：2000年
5. 鈴木茜，他：学童期の子どもたちを取り巻く環境と関係に関する研究。厚生労働科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 佐藤郁夫班報告書：2004年度
6. 鈴木茜，他：学童期 (前期思春期) の健康支援における地域保健師の視点に関する研究～養護教諭への意識調査から～。厚生労働科学研究 (子ども家庭総合研究



- 事業) 佐藤郁夫班報告書：2005年度
7. 松浦賢長：思春期の学校保健. 小児科診療：2005年8月
8. 男女の生活と意識に関する調査. 日本家族計画協会：2002年
9. 松浦賢長：新しい時代には新しい性教育
- を⑦. 心とからだの健康：2006年3月
10. 第5回「健やか親子21」推進検討会資料. 平成18年2月1日開催.
- <http://www.wam.go.jp/wamappl/bb16GS70.nsf/0/0D74AFADABC1BFC34925710A00179EC4?OpenDocument>

表1

クロス表

			自分ひとりで子育てしているという思いがありますか				合計
			よくある	ややある	あまりない	まったくない	
地域のお祭りや 行事に参加して いますか	はい	度数 地域のお祭りや行事に 参加していますか の %	14 4.0%	98 27.8%	176 50.0%	64 18.2%	352 100.0%
	いいえ	度数 地域のお祭りや行事に 参加していますか の %	14 10.1%	51 36.7%	52 37.4%	22 15.8%	139 100.0%
合計		度数 地域のお祭りや行事に 参加していますか の %	28 5.7%	149 30.3%	228 46.4%	86 17.5%	491 100.0%

表2

クロス表

			q19_1 子どもを連れて夜外出・外出などをすることがよく ありますか				合計
			1 ある	2 ときど きある	3 あまりない	4 ない	
q20_1 子どもは早寝 早起きをしています か	1 はい	度数 q20_1 子どもは早寝早起 きをしていますか の %	45 13.8%	136 41.6%	118 36.1%	28 8.6%	327 100.0%
	2 いいえ	度数 q20_1 子どもは早寝早起 きをしていますか の %	19 14.7%	69 53.5%	39 30.2%	2 1.6%	129 100.0%
合計		度数 q20_1 子どもは早寝早起 きをしていますか の %	64 14.0%	205 45.0%	157 34.4%	30 6.6%	456 100.0%

表3

クロス表

			q21 歯磨きや手洗いをしていますか			合計
			1 している	2 時々し ている	3 あまりし ていない	
q20_1 子どもは早寝 早起きをしています か	1 はい	度数 q20_1 子どもは早寝早起 きをしていますか の %	307 93.9%	18 5.5%	2 .6%	327 100.0%
	2 いいえ	度数 q20_1 子どもは早寝早起 きをしていますか の %	112 86.8%	16 12.4%	1 .8%	129 100.0%
合計		度数 q20_1 子どもは早寝早起 きをしていますか の %	419 91.9%	34 7.5%	3 .7%	456 100.0%

平成18年8月1日

保護者 各位

印旛郡市保健指導者研究会  
会長 梶川 堅治

3歳児の生活と親の意識に関するアンケート調査のお願い

この度、印旛郡市保健指導者研究会（保健師看護師部会）の調査・研究の一環として、3歳児の生活や親子関係等について調査し、今後の行政における子育て支援活動に活かしていきたいと考えております。

つきましては、大変ご多忙の折、誠に恐縮に存じますがアンケート調査にご協力くださいますようお願いいたします。記入したアンケートは、健診当日会場にて回収させていただきます。

なお、このアンケートに記載された内容につきましては、統計として取りまとめるだけで、皆様の個人的な内容が明らかにされることは一切ありません。

【問い合わせ先】 印旛保健所 043-483-1134

保健師 梅田奈津子 鈴木真理子

3歳児の生活と親の意識に関するアンケート調査

- A. 回答者 1. 父親 2. 母親 3. その他 ( )
- B. あなたの年齢 ( ) 歳
- C. 同居家族 (すべてに○を) 1. 父親 2. 母親 3. 祖父母 4. 兄弟  
5. その他 ( )
- D. あなたの就労状況 1. 常勤 2. パート・アルバイト等 3. 現在は職についていない
- E. 子どもの性別 1. 男 2. 女
- F. 子どもの出生順位 第 ( ) 子
- G. 幼稚園・保育園通園の有無 1. 保育園 2. 幼稚園 3. 通園していない

\* 以後、○の数の指定がない質問は、いずれか1つに○をつけてください。

- 問1. 地域の子育てサークル等に参加していますか。 1. はい 2. いいえ
- 問2. 地域のお祭りや行事に参加していますか。 1. はい 2. いいえ
- 問3. 公園などに子どもを連れて遊びに行くことがよくありますか。 1. ある 2. ない
- 問4. 自分ひとりで子育てしているという思いがありますか。  
1. よくある 2. ややある 3. あまりない 4. まったくない
- 問5. よくテレビ・ビデオを見せていますか。 1. はい ( 時間くらい/1日) 2. いいえ
- 問6. 絵本の読み聞かせをよくしていますか。  
1. はい ( 分くらい/1日に ・ 1週間に ・ 1ヶ月に) 2. いいえ
- 問7. お子さんとよく遊んでいますか。  
1. よく遊んでいる 2. 時々遊んでいる 3. あまり遊んでいない 4. 遊んでいない
- 問8. お父さんはお子さんとよく遊んでいますか。  
1. よく遊んでいる 2. 時々遊んでいる 3. あまり遊んでいない 4. 遊んでいない
- 問9. 外遊びをよくしますか。  
1. している ( 時間くらい / 1日に ・ 1週間に ・ 1ヶ月に) 2. ほとんどしていない
- 問10. 友達とよく遊びますか。  
1. よく遊んでいる 2. 時々遊んでいる 3. あまり遊んでいない 4. 遊んでいない

♪裏面もあります。

- 問 11. ごっこ遊びをしていますか。
1. よく遊んでいる      2. 時々遊んでいる      3. あまり遊んでいない      4. 遊んでいない
- 問 12. 食事の時間はだいたい決まっていますか。      1. はい      2. いいえ
- 問 13. 家族と一緒に食事をするのがよくありますか (1日最低1食あたり以上で)。
1. 毎日ある      2. 週に数日ある      3. ほとんどない
- 問 14. おやつは時間を決めて与えていますか。      1. はい      2. いいえ
- 問 15. よくかんで食べますか。      1. はい      2. いいえ
- 問 16. 子どもの食事をつくるのは楽しいですか。
1. はい      2. いいえ      3. 何ともいえない
- 問 17. お子さんは、一緒に食事づくりや後片付けをしていますか。      1. はい      2. いいえ
- 問 18. おむつはとれましたか。      1. はい      2. トレーニング中      3. いいえ
- 問 19. 子どもを連れて夜外出・外食などをすることがよくありますか。
1. ある ( 何時頃までには帰宅していますか :      時頃 )      2. とくどきある
3. あまりない      4. ない
- 問 20. 子どもは早寝早起きをしていますか。
1. はい ( 平日起きる時間 : 朝      時頃, 平日寝る時間 : 夜      時頃 )
2. いいえ ( 平日起きる時間 : 朝      時頃, 平日寝る時間 : 夜      時頃 )
- 問 21. 歯磨きや手洗いをしていますか。
1. している      2. とくどきしている      3. あまりしていない      4. していない
- 問 22. 衣服の着脱を一人でしますか。
1. する      2. とくどきする      3. あまりしない      4. しない
- 問 23. あなたの住んでいる地域では子どもに道で声をかけてくれる人がいますか。
1. はい      2. いいえ
- 問 24. 他の子どもに道でよく声をかけますか。      1. はい      2. いいえ
- 問 25. あなたは現在喫煙していますか。      1. いいえ      2. はい ( 1日      本 )
- 問 26. あなた以外の家族に、現在、喫煙している人がいますか。
1. いない      2. いる ( 1日      本, 誰 :      )
- 問 27. お子さんは、自分が「男の子」か「女の子」か、知っていますか。
1. はい      2. いいえ      3. わからない
- 問 28. 今までに、親から子へ性の話しをしたことがありますか。この設問は、あてはまるものすべてに○をつけてください。
1. 汚い手で性器を触らない      2. きれいに性器を洗う (トイレでの拭き方やお風呂での洗い方)
3. 性器を隠しましょう      4. 人の性器を触ってはいけない
5. 性器に関する表現は場所を選ぶ      6. 性器を見せたり話したりすることは恥ずかしいこと
7. お父さんとお母さんがどうして一緒にいるのか
8. 「好きな子」の話し      9. 「自分はどこからきたか」ということ
10. 男女の性器の違いについて      11. 話をしていない
12. その他 (      )
- 問 29. あなたは中学生の頃まで、親と性に関する事柄 (人を好きになること、セックス《性交渉》、避妊、性感染症などを含めて) について、話しをすることがありましたか。
1. よく話しをした      2. とくどき、話しをした
3. ほとんど話しをしなかった      4. まったく話しをしなかった

♪アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

## 周産期から就学期にかけての継続的な健康支援システム構築に求められる情報化と 情報関係のあり方に関する研究

松浦 賢長 福岡県立大学看護学部地域・国際看護学講座  
山縣然太郎 山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座

母子保健の課題は、妊娠・周産期から思春期、子育て期まで、幅広いものであるが、それらは常に環状に関連している。今回、分担班では、周産期から就学期までの情報関係のあり方を検討するための研究を開始した。また、子どもたちが、幼稚園、保育園（所）、在宅と複数の場に散らばる幼児期に特に焦点をあて、地域保健の保健師をキーパーソンにした情報関係のあり方と、それ以前の段階として、幼稚園や保育園（所）で保健担当者（養護教諭や看護師）が各施設における子どもたちの健康の状況を情報化し、それを有機的に使用していくためのツール開発を行った。

研究を行っていくに際し、本研究班では、混同されがちな「関係」と「連携」を区別して用いていくことにした。「関係＝人と人のつながり」「連携＝一緒に何かしよう・共同して何かしよう」と定義した。そして、「人と人のつながり（関係）の度合いによって、何か一緒にしよう・共同して何かしよう（連携）とする可能性が高まる」という仮説のもと、地域を中心とした関係・連携をみていった。

さらにキーワードを1つ提出した。「5者関係」（巻末図を参照）である。5者関係とは、周産期臨床の専門家（たとえば助産師）、地域保健の専門家（たとえば保健師）、幼児期（保育園）健康支援の専門家（保育士・保育園保健師・看護師など）幼児期（幼稚園）学校保健の専門家（幼稚園養護教諭など）、および小学校における学校保健の専門家（小学校養護教諭など）を指す。これら5者の関係がありはじめて、親子は健やかに育ちゆくと考えられるからである。

健やか親子21推進のための情報化と情報関係のあり方に知見を得たので報告する。

### I. 研究の目的

母子保健の課題は、妊娠・周産期から思春期、子育て期まで、幅広いものであるが、それらは常に縦横に関連している。今回、分担班では、周産期から就学期までの親子の健康に関する情報化と情報関係のあり方を検討するための研究を開始した。

子どもたちが、幼稚園、保育園（所）、在宅と複数の場に散らばる幼児期に特に焦点をあて、地域保健の保健師をキーパーソンにした情報関係のありかたを、それ以前の段階として、幼稚園や保育園（所）で保健担当者（養護教諭や保健師・看護師）が各施設における子どもたちの健康の状況を情報化し、それを有機的に使

用していくためのツール開発を行った。

また、同時に昨年度まで行ってきた厚生科学研究山縣班での成果を引き継ぐかたちで、幼児期の健康支援の専門家としてその職務と職種内関係が確立していない幼稚園養護教諭に焦点をあて、今後学校保健の端緒を担い地域と連携していくべき専門家としての情報関係のあり方について研究を行った。

### II. 用語の定義

本研究班では、混同されがちな「関係」と「連携」を区別して用いていくことにする。「関係＝人と人のつながり」「連携＝一緒に何かしよ

う・共同して何かしようとする」と定義する。そして、「人と人のつながり（関係）の度合いによって、何か一緒にしよう・共同して何かしよう（連携）とする可能性が高まる」という仮説のもと、地域を中心とした関係・連携をみていくことにする。

さらに、ここにキーワードを1つ提出する。「5者関係」（巻末図を参照）である。5者関係とは、周産期臨床の専門家（たとえば助産師）、地域保健の専門家（たとえば保健師）、幼児期（保育園）健康支援の専門家（保育士・保育園保健師・看護師など）幼児期（幼稚園）学校保健の専門家（幼稚園養護教諭など）、および小学校における学校保健の専門家（小学校養護教諭など）を指す。これら5者の関係がありはじめて、親子は健やかに育ちゆくと考えられるからである。

### III. 方法

本分担研究班では以下に示す4種の研究を行った。

#### <調査研究>

○幼児の健康情報（個人）の専門家間伝達に対する母親の意識調査（千葉県）

○周産期から就学期へと繋がる専門家の5者関係に関する研究（奈良県）

○幼児期の保健指導教材に対する評価とニーズに関する研究（全国）

#### <開発研究>

○幼児期の健康支援専門家のためのホームページの展開に関する研究

○幼児期の健康支援のための情報ソフトウェア群の開発

#### <実践研究>

○5者（助産師、保健師、保育士、幼稚園養護教諭、小学校養護教諭等）関係の開発研修会（奈良県）

#### <文献研究>

○介護保険法及び関連法令基準等と実施運用における個人情報扱われ方と連携体制に

関する研究

### IV. 結果

#### <調査研究>

○幼児の健康情報（個人）の専門家間伝達に対する母親の意識調査（千葉県）

集団生活前の未就園児をもつ保護者を対象に、子どもの情報を地域と幼稚園でどのように行っていけばよいのかの示唆を得るために、意識調査を行った。その結果、幼稚園養護教諭の配置に関する周知度は低いこと、幼稚園養護教諭の配置を約9割の親が望んでいること、幼稚園養護教諭に最も希望することは応急手当であるが、健康支援のための相談や情報提供、地域と学校の関係についてを望む親もいること、3歳児健診の内容について保健センターから幼稚園に情報伝達して子どもの健康支援のために有効活用することを望む親が8割以上もいることがわかった。

#### <調査研究>

○周産期から就学期へと繋がる専門家の5者関係に関する研究（奈良県）

子どもの健康における関係の実態や現場が抱える問題および意見、各専門職者の子どもを見る視点の相違を把握することを目的にアンケート調査を実施した。

結果：①回答者の9割以上は何らかの形で関係を経験していた。しかし、医療にかかわる職種や施設において関係に関する意識が低かった。②関係で共有している内容は、子どもとそれを取り巻く環境についての情報であった。③気になる子がいる時や問題発生時に関係しており、定期的な関係の実施は約1割であった。④関係するには人と人とのつながりを考慮したものだけでなく、文書が必要とされていた。⑤関係している職種や今後関係したい職場は、あらゆる職種や職場が選択されていた。⑥関係の主体となる人は管理職が約3割を占め、保健師では約8割が担当保健師となっていた。⑦気

になる子は職種による視点や意見により若干の相違はあったが、対象の生活すべてを捉え考えていた。⑧妊娠期から就学期までに関連する専門家の関係の意識には、情報を「受け取る」「取り渡す」という視点の両方をもっている場合がほとんど見られなかった。

#### <調査研究>

○幼児期の保健指導教材に対するニーズに関する研究（全国）

幼児の健康実態にあった内容の保健指導の教材開発や教材研究方法については、職務に必要な情報のニーズにつき昨年度厚生科学研究山縣班において全国の幼稚園養護教諭を対象に行った「幼稚園養護教諭における同職種内連携ニーズ調査」の結果を踏まえ、「平成15年度版研究プロダクトに関する調査」を行った。

その結果、幼児期の子どもにあった教材が少なく、幼稚園では小学校低学年むけに開発されているものを用いている現状が浮かび上がった。さらに、幼稚園養護教諭同士の関係（人と人とのつながり）の重要性やこれからの課題に気づいたという意見も多くあった。

#### <調査研究>

○幼児期の健康支援専門家を対象とした保健管理統計ソフトに対するニーズに関する研究（全国）

幼児期における3種類の保健統計管理ソフトを開発し、幼稚園養護教諭におけるニーズと幼児期における保健管理の実態調査を行った。保健管理の現場では、保健日誌が活用され、職務に活かされていることが明らかになった。その一方で、幼児期における保健関係の書籍やソフトなどが十分に存在しておらず、保健統計管理ソフトへの期待が高いことが明らかになった。

#### <開発研究>

○幼児期の健康支援専門家のためのホームページの展開に関する研究

今年度は「関係＝人と人のつながり」と定義し、幼児期にすべき健康支援を考えていくため、他職種との関係を視野に入れたホームページのリニューアルや他職種との関係を充実させていくためには、まずは同職種の関係を強化することと考え、一歩先をみてさらにホームページが充実するよう内容を検討し運営した。「お役立ちイラスト集」「実名参加の掲示板（EX-BBS）」のページを新たに追加した。掲示板&情報交換会のページとお役立ちイラスト集のページのアクセス数が、他のコンテンツに比べ著しくアクセスを伸ばしている。また、掲示板の参加は保育園看護師・幼保一元化の施設の養護教諭・看護師免許で保育園幼稚園に採用された人・看護師免許で臨時の幼稚園養護教諭・小学校養護教諭・中学校養護教諭と、同職種ばかりでなく他職種の参加も増えてきた。

#### <開発研究>

○幼児期の健康支援のための保健統計ソフト（保健日誌）の開発に関する研究

日々の執務記録で比較的使用頻度の高い保健日誌の記載内容を中心とした保健室来室状況を統計処理できるソフトを開発し、全国の保育所（園）・幼稚園養護教諭に提供し、気になる子どもや保護者の健康支援や組織連携確立の材料として活用がなされることを目的とし、開発研究を行った。

#### <開発研究>

○幼児期の健康支援のための保健統計ソフト（健康診断）の開発に関する研究

健康診断の結果を統計処理できるソフトを開発し、全国の保育所（園）・幼稚園養護教諭に提供し、今後の健康的な課題解決への材料として活用がなされることを目的とし、開発研究を行った。

#### <開発研究>

○幼児期の健康支援確立に向けた保健文書

様式の情報化に関する研究

幼児期学校保健分野における幼稚園養護教諭の職務が、勤務する地域や園種に関係なく、共有できる基本的な書式を共有することで、職務の内容が整理できるよう、保健関係文書様式例を（今後）情報化できるかたちを開発した。

#### <実践研究>

○5者（助産師、保健師、保育士、幼稚園養護教諭、小学校養護教諭等）関係の開発研修会（奈良県）

妊娠・出産期から地域へ、地域から保育所（園）・幼稚園へ、保育所（園）・幼稚園から小学校へという縦断的な連携について、乳幼児期の健康支援という点に着眼し、これらに関わる専門職「助産師」「保健師」「保育士」「幼稚園教諭（養護教諭含む）」「小学校養護教諭」の5者関係をスムーズに図ることの出来る体制づくりに必要なことは何かを明確にすることを目的に、「幼児期健康支援担当者研修会」を実施し、「気になる子」の支援をテーマにグループワークを行い、そこから各関係機関の連携意識の現況把握、連携するにあたっての意識とは何か、連携するのあたって習得しておくスキルを把握した。

#### <文献研究>

個人情報保護と各種関係機関の連携の両立を図りながら、サービス展開を行っている介護保険事業について、連携が円滑に図られている背景を分析し、そこから乳幼児健康支援連携への応用の可能性を考察することを目的に、法令通知等の公文書等条件整備と実際の運用方法の二側面から分析した。結果、条件整備では、法令条文及び国レベルの通知文にて個人情報保護と連携の重要性がうたわれていた。又運用方法では、1、第三者への情報提供に関する説明を、本人及び家族にされる。2、情報提供の目的等が記載された文書に、本人及び家族のサイン・捺印をしてもらう。3、1、2は、市区町村の介護保険窓口での介護保険申請時、各種

サービス事業所との契約時のすべてで実施される。4、同意が得られなければ、その部署から外部に情報は一切提供されない。5、実際会議等で情報を提供する際は、必ず本人・家族へ連絡し同意確認を行う。であった。

#### V. 成果と今後の課題

まず、千葉県印西市で行った「幼児の健康情報（個人）の係に対する母親の意識調査」には約300人の回答を得たが、そこでは87.9%もの母親が、保健センターと幼稚園との（個人）情報係に関して、「プライバシーに配慮した上で情報係をしてほしい」と肯定的な回答を寄せていた。この数値は予測されたものよりも大きなものであったが、他の地域においても同様の高率が示されるのかどうかさらに検討してみる必要がある。また一方で、個人（保護者）の承諾が得られた場合には、幼児期を対象とした地域保健と学校保健の間の情報係を行えるモデルの構築が必要だと考えられた。

奈良県で行った妊娠期から就学期までに関連する専門家の係意識に関する調査では、子どもたちの情報を「受け取る」という視点と「取り渡す」という視点の両方をもっている場合（専門家）がほとんど見られないことが明らかになった。母子保健にはじまりと終わりはなく、環状に連関していることから考えると、どの職種（専門家）においても親子の情報を受け取り、取り渡すという視点を有することが必要だと考えた。

5者係の実践研修会では、子どもたちとその親をセットで考えた対応が必要であるという認識が共有できたが、プライバシーへの配慮から「グレーゾーン」の親子への対応の難しさが浮き彫りになった。これについては、介護保険分野での情報係を分析した結果、必ずしも隘路ではないことが示唆され、モデル構築へ踏み出す必要性が得られた。

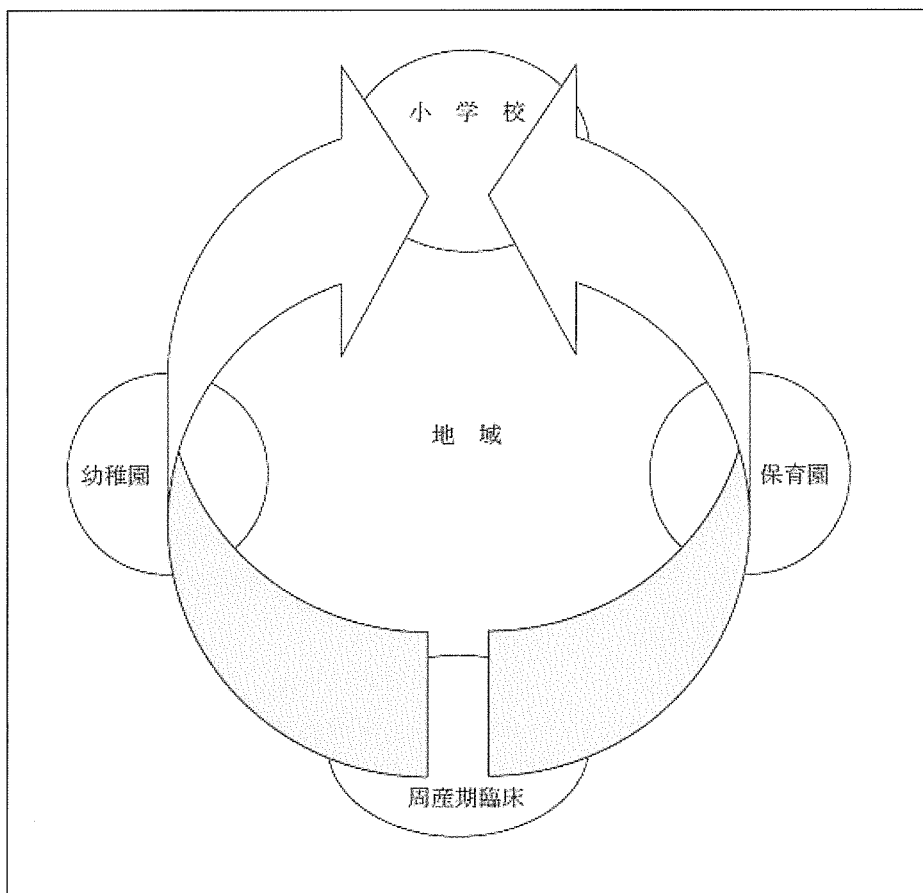
幼児期の健康支援にあたる専門家にとっては、保健指導教材が満足には流通していないこ



とが明らかになった。また同時に、職務において、子どもたち（親も含む）の健康に関する情報を、今後の職務に活かせるかたちで蓄積していることが多くはないことも明らかになった。この知見より、本研究班では、保健指導教材や健康支援の現場で用いることのできる保健統計ソフトウェアを開発したが、今後は、これらプロダクツがどのように運用され、どのように現場に寄与したかを追跡していく必要がある。

幼児期の健康支援にあたる専門家として、専門家としての職務が確立途上にあるのが幼稚園養護教諭とあってよいだろう。同職種間での関係がないことに着目し、本研究班では、インターネット上での関係を目指した開発研究を行ってきた。ようやく初期段階を通過したところだと考えるが、今後同職種間での関係についてはどのような介入プロセスが必要なのかの戦略を構築することが求められる。さらに、もっとも低い年齢層を扱う学校保健の専門家としての職務が確立され、同職種間での関係がとられるならば、他の4者間との関係もでき、健やか親子21の目標にかなう連携が生まれることが期待される。

最後に、5者関係モデルを確立していくにあたり、本研究班に今後必要なことは、情報を周産期から「取り渡す」助産師との関係、地域保健や就学期学校保健との関係が求められる保育士・保育園看護師等との関係であることが明らかになった。来年度以降、この点の課題を踏まえ、子どもの人生の初期段階をめぐる専門家の関係（バトンパス）モデルを構築していく必要があると思われた。そのプロセスにある強化要因や阻害要因などを明確にして、それらに対応していく戦略を構築していきたい。



5者連係図. 親子とともに歩む周産期－就学期健康支援のための継続的連係体制

## 小児の事故による傷害の情報収集、ならびに指標に関する検討

分担研究者 山中 龍宏（緑園こどもクリニック）

事故による傷害を予防するためには、事故の原因を究明する必要がある。重症度が高い傷害が受診する医療機関において、どのような情報収集が必要か、また可能かについて検討した。事故の発生状況は多岐にわたっており、文字で表現するより模式図で表したほうが情報量が多く、事故の発生状況をコンピュータグラフィクス化する場合に有効であることがわかった。また、現在「健やか親子 21」で取り上げられている事故予防の指標では活動を評価することは難しく、その対案として 39 項目の指標を挙げ、それらを実際に展開する場合の問題点について検討した。

### A. 研究目的

1960 年以降、0 歳をのぞいた小児の死因の第 1 位は「不慮の事故」となっている。事故を予防するためには、事故について詳しく分析し、事故の原因を明らかにしなければならない。

現在まで、傷害に関しては、死亡を中心としたデータの分析のみが行われてきた。個別の事例についての検討は、国民生活センター、製品評価技術基盤機構（NITE）、製品安全協会、また各企業などで行われてきたが、事故全体からみると、微々たる件数にしかすぎない。

医療現場には、日々、膨大な数の事故による傷害例が受診しているが、それらの傷害例を事故の予防に結びつけることはたいへんむずかしい。

そこで、医療機関で、どのような情報をとることが必要かについて検討することとした。

また、「健やか親子 21」で取り上げられた指標について検討し、現在示されている指標では傷害予防活動を評価することは難しく、新たな指標とその計測方法についても検討した。

### B. 研究方法

事故による傷害のために緑園こどもクリニックを受診した小児の診療記録について検討した。

8 箇所の健康福祉部、保健所、保健センターの保健師、保健担当医師を対象として、筆者が考えた小児の事故予防活動の指標 39 項目とその計測値（表）(1-15) について、自分の担当地域で調査する場合の実行可能性についてアンケート調査を行った。アンケートでは、各項目について、「a) 調査可能」か、b) 「調査不可能」の二つから選択してもらい、調査が可能である場合には、「すぐに取りかかることができる」と「すぐには取りかかれない」の二つから選択していただいた。さらに「すぐに取りかかれない」を選択した場合には、その理由について記載していただいた。「調査は不可能」と選択された場合にも、その理由を記載していただいた。

### C. 研究結果

#### a) 必要な情報収集について

受診した症例の中から例として 4 例を選び

出し、その結果を以下に示した。今までの情報収集のスタイル、より詳しい状況を聴取した内容、模式図の順に記載した。

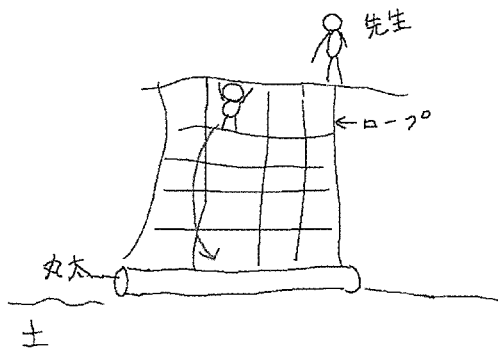
【症例】ID 7504 2歳6ヵ月男児

平成18年9月12日午前10時40分頃、保育所の園庭のアスレチックから転落し、顔面に擦過傷。創傷処置を行った。

【詳しい状況の聴取】

アスレチックの網目をほぼ最上部まで登り、足を踏み外して網目のロープを伝って下まで落ち、下の木の丸太に頭をぶつけた。おなかの辺りに擦ったあとがあった。当日は雨が降っていて滑りやすかった。

【模式図】



【症例】ID 9835 9ヵ月女児

平成18年9月21日午前6時頃、自宅の寝室でスタンドの白熱灯に触り、右手掌にやけどした。すぐに流水で冷やした。熱傷Ⅱ度。

【詳しい状況の聴取】

父親が近くで寝ていた。スタンドの明かりは、触れるとつくタイプで、本人が触ってつけたようだ。

【模式図】



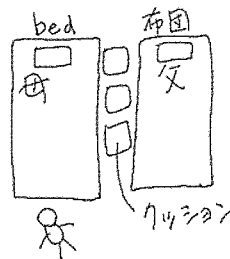
【症例】ID 8979 1歳5ヵ月女児

平成18年10月3日午前2時頃、自宅の寝室でベッドより転落した。どこを打ったかよくわからない。5時間後に嘔吐が1回。全身の打撲。経過観察とした。

【詳しい状況の聴取】

大人用ベッドに母と二人で寝ていた。ベッドの高さは60-70cm。床はフローリング。泣き声で気づいた。ベッドの横には落ちても大丈夫なようにマットを敷いていた。横には夫も寝ているので大丈夫と思っていた。まさか、足のほうから落ちるとは思わなかった。

【模式図】



【症例】ID 9571 1歳5ヵ月男児

平成18年11月21日午前10時30分頃、保育所の引き戸に手を挟まれ、左第1指の爪が剥離した。

【詳しい状況の聴取】

引き戸は保育所の入り口の戸で、スチール製。

【模式図】